

りつめい

立命館大学校友会報

題字・末川 博名誉総長

R Alumni

立命館大学校友会

No. 269
2017 JULY

100th

2019.つなげる校友会、
ひろがる立命館

R Alumni

りつめい No.269／2017年7月号

発行所／立命館大学校友会／年4回発行

発行人／村上健治

編集人／加藤美佐子

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

Tel. 075 (813) 8216 Fax. 075 (813) 8217

URL : <http://alumni.ritsumeijp>

E-mail : alumni@st.ritsumeijp

【巻頭特集】

Beyond Borders

— Borderを超えて活躍する校友たち —



輝くひと

ロボットクリエイター

高橋智隆さん('98産社)

美学と夢をロボットに詰め込んで

ドライバー1本でつくれてしまう「ロビ」。その手軽さと、なんともいえない愛らしい姿に、近未来の存在であったロボットを身近に感じた人も多いだろう。生みの親である高橋智隆さんは立命館大学の産業社会学部出身。趣味に明け暮れ楽しい学生時代を過ごすものの、就職活動での挫折を機に、幼い頃からの夢であったロボットづくりの道へ進むことを決意した。

ロボットづくりのこだわりを伺うと、「まず何よりも自分の欲しいものをつくること」と即答。「自分の好奇心を満たしたいから力が発揮できるし、こだわられる」と力をこめる。ロボットブームの火付け役となった「ロビ」は、今年6月「ロビ2」として新たな進化を遂げた。“進化した2代目”と聞いて想像するのは、さらに大きなコンピュータを積んだ複雑な制御のロボットだが、高橋さんは真逆の発想。「かなり割り切って取捨選択しました。いかに削ぎ落としてシンプルにし、残った要素の完成度をどれだけ高められるか。複雑な構造にしていくと、結局“何でもできそうで何もできないロボット”になってしまう。簡単な組み立てと簡単な操作で感動を与えるというロビの良さが消えないように心掛けました」。それはまさに、高橋さんが尊敬するスティーブ・ジョブズが開発したiPhoneと同じ発想だ。

ロボットブーム以前の時代から現在に至るまで、ひたすら自分の道を突き進む高橋さん。「仕事とは思っていません。お金を稼ぐこと自体が目的でもない。自分の欲しいものをつくるからには完璧にしたい。意地というか、美学ですね」。夢を実現させたその姿は、輝きに満ちている。

2016年にシャープ株式会社との共同開発で発売された「ロボホン」にも高橋さんの美学が詰め込まれている。これまで手掛けた人間型のかわいらしさはそのままに、スマートフォンの機能を搭載した。「世界で最も優れたコミュニケーションロボットだと言い切れる。どんな大企業であろうが、これをを超えるものは、向こう5年はつukれない」と語る。最高の自信作だからこそ、一人でも多くの人に届けたい。最終的な目標は、近い将来街ゆく一人ひとりがロボットを手に入れている光景。夢の続きはこれからのようだ。



ロボットクリエイター

たか はし と も た か

高橋智隆さん ('98産社)

輝くひと

101

〈PROFILE〉

株式会社ロボ・ガレージ代表取締役社長。東京大学先端科学技術研究センター特任准教授。現在、二足歩行ロボットとして史上最も売れた「ロビ」の第2弾、週刊『ロビ2』がデアゴスティーニ・ジャパンより発売中。(シリーズ全80号)

立命館大学校友会報

りつめい JULY 2017
No.269

03 巻頭特集

Beyond Borders

— Borderを超えて活躍する校友たち —

02 輝くひと

ロボットクリエイター
高橋智隆さん

08 RITSUMEI INTERVIEW

DJI JAPAN 株式会社 代表取締役
呉 韜さん

12 立命館の研究者たち

生命科学部 村澤秀樹助教
「医療の費用対効果を評価する」

14 「オール立命館校友会大会2017 in 京都」予告

16 校友会設立100周年 Road to 2019 vol.05

17 東北応援ツアーのご案内

18 校友会未来人財育成基金

20 2017年度 校友会幹事会報告

22 校友会ネットワーク

行事報告
今後の行事予定

24 学生の活躍

26 キャンバストピックス

29 +Rな人

近藤 礼さん(経済4)

30 INFORMATION

編集室から

Present

アンケートにご協力いただいた方にオリジナルグッズをプレゼント中!



| 巻頭特集 |

Beyond Borders

A portrait of Yoko Yamamoto, a woman with long dark hair, wearing a grey blazer over a white top. She is standing on a rooftop with a city skyline in the background.

Yoko Yamamoto

自分の中の Borderを超えて

自国を離れ、他国で活躍する校友がいる。
想いを叶えるため異なる言葉や文化の中でも
ひたむきに突き進み、自分の道を切り拓いていく。
そんな二人に共通するのは
「なにを失っても怖くない」という強さだった。

文：高原珠美 撮影：山田真実 (P3 左上、P4-5)、宅間國博 (P3 右下、P6-7)

A full-body portrait of Ta Son Tung, a man in a dark blue suit and tie, standing on a rooftop with a city skyline in the background.

Ta Son Tung

Japan ▶ New York

人生を変えた恩師の言葉

ニューヨーク州訴訟専門弁護士

山本容子^{さん}

Yoko Yamamoto

1995年 法学部卒業

小学生のとき、日本のテレビドラマで弁護士が法廷で戦う姿をみて、「カッコいい!」と憧れ、弁護士を目指したという山本容子さん。

「夢を実現するため立命館大学の法学部に入りましたが、実は弁護士になることを早くに諦めていました」と話す。それは大学1回生のとき、見学に行った予備校があまりにも暗く、この雰囲気の中かで司法試験の勉強を数年間続けることはできないと思ったからだ。弁護士になることは諦めたものの、大学は卒業しなければならない。せめてゼミは楽しそうなものにしようと堀田牧太郎教授の英米法ゼミを選んだ。この選択が山本さんの人生を大きく変えることとなる。

「山本さん、アメリカで弁護士になれば?」

堀田教授からの言葉に山本さんは絶句した。

「日本で弁護士になることも諦めているのに、英語も話せない私に何の冗談だろう」

堀田教授の指導は、山本さんが涙するほど厳しいものだったが、「堀田先生についていけば、道を拓くことができるのでは」という直感を信じて、山本さんは食らいついていった。結果、2年後には「アメリカで弁護士になる」と決意するほど、山本さんは大きく変化を遂げた。立命館大学卒業後、英語力を身につけるため、日本人が少ないアメリカのオレゴン大学に入学。政治学を専攻し、猛勉強の末、2年かかるカリキュラムを1年で卒業した。「あのころの睡眠時間は毎日3時間程度でした。ディスカッションをするクラスで討論に参加できない、貢献できないくやしさが私をかき立てました。教授の許可を得て授業を録音し、家で何度も聞き直し復習。理解できたと思ったら、翌日の授業の予習。日本にいたころよりも勉強していたと思います」と振り返る。その後、カナダのプリティッシュ

コロンビア大学の法科大学院でLL.M.(法務修士)を取得。LL.M.取得中にニューヨークの国際連合法務部のインターンシップに参加した。

「ニューヨークの人は声がやたら大きいし、ぶしつけ……」当初、ニューヨークの印象はよくなかったという。「早く温厚なバンクーバーに帰りたい」と思ったのもつかの間、2週間後には「ここで働きたい!」と思うほどニューヨークが好きになっていた。「ニューヨークの人はぶっきらぼうに感じますが、それは飾らず、素で付き合っているから。人との距離感や物事のスピード感が私に合っていると感じました。さまざまな国から色々な人が集まっている場所で自分の力を試してみたいと思ったのもあります」

現在、山本さんが働いているのは、アメリカに複数のオフィスを持ち、約1,200名の弁護士が所属している大きな法律事務所である。100名ほどの弁護士がいるニューヨークのオフィスで外国籍の弁護士は山本さんだけである。今では訴訟専門の弁護士として大きな案件を担当し活躍する山本さんだが、弁護士になったころは職探しに苦労したという。当時、アメリカでは日本企業の撤退が相次ぎ、「日本語の話せる弁護士」というだけでは雇ってもらうことができなくなっていたのだ。「ビザさえもらえれば何とかなる」と1年間就職活動を続け、「薄給でもよければ」と小さな法律事務所が声を掛けてくれた。「弁護士1年生で、得意な専門分野もなく、英語もネイティブではない私にチャンスをくれた事務所には心から感謝しています」

山本さんによると、アメリカでは結果を出せば「一緒に働かないか」と別の事務所から声が掛かるという。大きな訴訟案件を任せてくれる事務所に入ることを目指し、場数を踏み、結果を残してきた。「ニューヨークに来たころはこんな大きな事務所で働けるなんて夢にも思っていませんでした。私は目の前のことを、がむしゃらにやってき

ただけです」と語る。「もし、明日から別の国で働くように言われたとしても、私は『あ、そうなの』と受け入れると思います。今のところ、ニューヨークより好きな場所はないですが、私は今持っているものを手放す怖さはありません。たいしたものを持っていないと思っているからでしょうね。それよりも、その先にはもっとわくわくすることが待っているかもしれない。その期待や希望のほうが大きいのです」

「早く僕に教え子を自慢させて」

卒業後も応援し続けてくれた堀田教授の言葉を胸に刻みながら仕事に取り組む。「先生との約束を果たす途中で、先生は旅立たれました。私は今でも先生の教え子として恥ずかしくないように全力で仕事と向き合っています」

「泣かせてしまうほど厳しく指導をしたのは山本さんはやればできるのに、やらないのが歯がゆかったから」恩師は私の可能性を信じて、ここまで導いてくれた――。

「立命館大学に入っていなければ、尊敬する恩師に出会えていなかった。立命館大学に入って本当によかったです」

ニューヨークの空の下で山本さんは、そう語った。



Viet Nam ▶ Tokyo

日本のように世界から認められる国へ

Rikkeisoft 代表取締役会長

タ・ソン・トゥン さん

Ta Son Tung 2011年 情報理工学部卒業

「はじめまして。よろしくお願いいたします」

日本人が恐縮するほど深々とお辞儀をして迎えてくれたのは、Rikkeisoft代表取締役会長のタ・ソン・トゥンさん。Rikkeisoftは2012年にベトナムで設立。社名の「Ri」は立命館大学に由来している。当初、4名だったスタッフも今では300名以上に増え、2016年には日本法人も立ち上げた。取引先はすべて日本企業で、スマートフォンアプリ、ゲーム、ウェブシステム、金融・業務系のソフトウェア開発と業務内容も年々拡大している。スタッフの半数以上が日本語能力試験（JLPT）の上級位認定者で日本語を使ったコミュニケーションに支障はない。それに加え、難関大学の出身者などの優秀な人材を集め、製品のクオリティを高めることで取引先を着実に増やしている。

トゥンさんが来日したのは2009年のこと。ハノイ工科大学在学中に国際協力機構（JICA）のIT人材育成プログラムの第1期生として立命館大学情報理工学部に留学した。立命館大学で2年間学んだ後、ベトナムに戻り、国内最大手のIT企業に就職。プロジェクトマネジャーとして活躍していたが、好きな日本で日本人を相手に仕事をしたいと独立し、現在に至る。

「留学時代は、教授を独り占めするくらい研究室に通いました。その他にも問題解決のアプローチ方法など学んだことがたくさんあります。今の私があるのは立命館大学のおかげです」と語るトゥンさん。自分ができることは何でも協力したいと、毎年、インターンを十数名受け入れるなど立命館大学とのつながりが続いている。

ベトナムの首都ハノイの南部にあるアオザイの村、TRACH XÁでトゥンさんは生まれた。母親もアオザイ職人として働いていたが、20年前はアオザイ1着で100円ほどの売りにしにかならず、とても貧しい暮らしだったという。そのような状況でも両親は困っている人がいると手を差し伸べ、住む場所が必要な人に自宅の寝床を提供し、共に暮らす生活をしていた。

「あるとき、父が病院で知り合った人の息子さんをわが家で預かることになりました。彼はとても頭が良く、まるで家庭教師のように私に勉強を教えてくださいました。ITの面白さを教えてくれたのも彼なのです」。ITの専門知識を学ぶため、理系の名門校であるハノイ工科大学に進んだトゥンさんは、当時アジアで発展していた日本で勉強したいと日本への留学を志した。夜中の2時から朝の6時まで勉強し、そのまま6時45分から始まる大学の授業に通う生活。朝方に勉強をするのには理由があった。家で勉強ができる場所は限られていて、姉たちが勉強する時間を避けるとその時間帯になったのだ。家業の手伝いよりも学業を優先させてくれた両親も勉強ばかりしている息子を心配して「たまには遊びなさい」と言うこともあったが、トゥンさんは日本への切符を手にするまでの3年間、脇目も振らず、まい進した。

日本人を相手にビジネスをする怖さはなかったのか尋ねると「ない」と即答する。「日本人はまじめでうそをつきません。また、結果主義ではなく、プロセスを重視し、努力している人間を評価してくれる。私は日本の仕事のスタイルが好きなのです」。そして、こう続ける。「私はお金も人脈も、何もないところからスタートしました。失敗しても失うものがないから、全然怖く

なかった。それは今も変わりません。それよりもやりたいことがたくさんあって、怖がる暇はないのです」と目を輝かせる。

ベトナム国民の平均年齢は28歳。1986年のドイモイ政策で計画経済から市場経済への移行後、2016年の経済成長率は6.21%と急成長を続けるベトナムだが、仕事や品質に対する意識がまだまだ低いとトゥンさんは指摘する。「ベトナム人はmade in Viet Namよりもmade in Japanが好きです。ベトナム人自体が自国の品質を信じていない。日本の品質や仕事に対する意識の高さをベトナムに浸透させたい」

ベトナム出身ということで悔しい想いをしたことがあるという。立命館大学留学中、ビザの申請が間に合わず、イギリスで開かれた学会に出席できなかったのだ。「海外での学会出席は私の夢でした。日本の同級生はビザなしでイギリスに行けるのに、私は入国できなかった。ベトナムは世界に認められていないのだと実感しました」。自分の孫たちがビザなしで渡航できるくらいベトナムの経済を発展させたい。日本のように世界から尊敬され、認められる国にしたい。その想いがトゥンさんの原動力だ。

同社は2020年までにスタッフを1,000名に増やし、売上高25億円超えを目標としている。先日、日本企業の会長からあることを持ち掛けられた。どちらが先に従業員1万人を超えるほど会社を成長させられるかという勝負だ。「相手の会社は弊社より何倍も大きい。それでも私にそう言ってくださったのはビジネスパートナーとして認めてくださっているからだと思います。その気持ちがとてもうれしいです。でも、勝負には負けませんよ」とトゥンさんにはこやかに教えてくれた。



[撮影] 宅間國博

DJI JAPAN 株式会社 代表取締役

呉 韜 さん

2008年 理工学研究科修了

誰もが大空を飛ぶ夢を実現できるように

民生用ドローン市場の世界シェア7割を占めているマルチコプターの世界的リーディングカンパニー、DJI。本社は中国のシリコンバレーといわれる深センにあり、DJI JAPAN 株式会社の代表取締役を呉韜さんが務める。

DJIは、民生用ドローンのメーカーで技術先行型ベンチャー企業です。2006年にフランク・ワン氏が中国で創業しました。現在、スタッフは約8,000名で、アメリカ、ドイツ、日本、北京、上海、香港など17拠点で展開し、それぞれの地域や特性にあった製品を開発するためMade in Globalで対応をしています。

日本支社は2013年に設立しました。日本支社には開発、マーケティング&セールス、アフターサービスの部門があり、約120名のスタッフが在籍しています。

中国やアメリカではホビー用としてドローンが広まりましたが、日本では業務用ドローンのニーズが高いです。なぜなら、日本には以前から農薬散布のためにラジオコントロールヘリコプターを使用していた歴史があるからです。ドローンは空中を飛ぶだけの役割ですが、搭載するセンサーやカメラの精度があがったことで活用が広がっています。例えば、上空からの撮影を利用してインフラの管理、点検、計測、検査が可能です。また、10キロの物を運ぶことができるドローンを日本で開発しました。日本は災害が多く、道路が崩壊し陸路がふさがることが多々あります。このドローンを使うことで、人が入れなくなった場所にいる孤立者に空から衛星電話や水、食料、医薬品など緊急物資を届けることができます。ドローンは、人命救助にも役立てることができるのです。

ドローンの活用範囲が広がっていくに従い、正しく安全な使い方をマスターした操縦者を育成することが必要と

考え、弊社では2016年から「DJI CAMP」と呼ばれる技能認定を行っています。独自の認定カリキュラムで、3年間で10,000名の操縦者の技術を認定する予定です。2015年に改正された日本の航空法では、航空機の航行の安全に影響を及ぼす地域や人口が密集している地域などでドローンの飛行を禁止しています。現在、日本で使われているドローンの約9割を弊社の製品が占めているので、正しい知識や操縦法、飛行モラルを身に付けている人材を育成・認定することが日本におけるドローン業界の発展と安全な産業利用を推進することになると考え、取り組んでいます。

2016年 新製品発表会で登壇した呉さん
(写真提供：DJI JAPAN 株式会社)

目的と選択

私は、小学生になる前から「ロボットをつくる」と周囲に宣言していました。それは、母が家事で忙しそうにしている姿を見て母を助けたいと思ったからです。高校生になってもその想いは変わりませんでした。日本はロボットの研究が進んでいましたし、手塚治虫氏の「鉄腕アトム」を見て、アトムのようなロボットをつくりたいと思い、立命館大学理工学部ロボティクス学科に留学生の推薦枠で入学しました。そのころ、日本でロボティクス学科があ



るのは立命館大学だけだったと記憶しています。私は同学科の2期生です。さらに学びを深めるため大学院の工学設計研究室に進み、ロボットビジョンシステムや画像処理、ロボット制御の研究をしていました。私はスイッチが入ると没頭するタイプなので、そのころは研究室で寝泊まりし、研究室で暮らしていたといっても過言ではない生活をしていました。研究室で仲間と鍋を囲んだこともいい思い出です。

合間を縫って20種以上のアルバイトも経験しました。レストランでの調理、家電量販店での販売、自動車のエンジンをつくる工場、プラスチックの加工工場、ラーメンをつくる工場、包装の工場などです。物がどのようにつくられ、それがどのように消費者にわたるのか実際に学びたく、多種多様な仕事に携わりました。

在学中に「Ritzzy」というバスケットボールチームを仲間と立ち上げました。私は理工学部ということでホームページの管理などIT関係を担当しました。このチームは非公

式の団体ではありますが、今も後輩たちに受け継がれ活動が続いています。とてもうれしいことです。当時、理工学部におられた銭学鵬准教授（現・立命館アジア太平洋大学〈APU〉アジア太平洋学部准教授）にRitzzyの顧問としてお力添えいただいたのですが、そのご縁から、昨年APUで講義をさせていただきました。テーマは「選択」。大学では、授業や本から知識を得ることはできますが、何を選択するべきかを教わる機会がほとんどありません。大学を卒業して社会に出れば選択の連続で、どのように選んだらよいか途方にくれる人も多いと思います。そこで学生たちに正しい選択の仕方を学んでほしい、「品川駅で効果的に求人広告を出すには」という議題でワークショップを行いました。これは実際に弊社で検討していた案件です。最初は固く考えていた学生たちも、ヒントを与えると柔軟に考え始め、費用対効果を測り、具体的に検討を始めました。その結果、学生たちは「品川駅に求人広告を出さない」という選択をしました。インターネットを使えばもっと安く効果的な求人広告を打てるのではないかと導き出し、その結論に至ったのです。これが選択です。目的を達成するため選択をする。あまたある選択肢に惑わされるのではなく、目的を達成するために必要なことを選択するのです。

私は、常に自分の選択は正しいと思っています。何か失敗したとしてもやり方を間違えただけで、選択そのものは間違っていないという自信があります。前に述べたDJI CAMPも国内初の試みでシステムの構築にはコストも労力もかかることは理解していましたが、安全性を重視する日本にとっては必要なことと判断し、プロジェクト



Ritzzyのチームメートと（呉さん：後列中央）
写真：ご本人提供



ドローンは空からのアプローチを可能にした（写真提供：DJI JAPAN 株式会社）

を実行しました。トップに立つ人間が自分の選択に自信を持たないと、部下はついていくことができません。そして、私はスタッフにも正しい選択ができる人間であることを望んでいます。なぜなら、それが真の智恵だからです。

「今」すべきことをする

私は思いついたら集中して物事を進めるタイプです。寝る間を惜しんで仕事をすることもあります。そのスタイルは大学時代と変わりません。といつつ、睡眠をしっかりとることを心掛けています。夢の中で何かひらめくかもしれませんし（笑）。オフモードのときも、気になることを少しの時間でも調べたり、本を読んだりして情報収集をしています。それらが蓄積されて、大きなひらめきにつながっています。

世界の進むスピードは、われわれの想像をはるかに超えています。そのスピードの中では何年も先の中・長期目標より、実現性が高い短いスパンでの目標が重要だと考え、弊社では3カ月後に達成する目標を立てて業務に取り組んでいます。

私は非常にポジティブな人間なのですが、それはエンジニアだからだと思います。エンジニアにとってバグが出るのが日常茶飯事。それを改善してより良いものをつくっていく、バージョンアップをすることが仕事です。失敗し

てもそこから学べばいい。だから、経営者という立場になっても、恐れず前に進み続けることができるのです。

ドローンというロボットの出現によって、空の活用方法が検討されるようになってきました。空から魚群を探したりもできるでしょうし、想像すればするほど、さまざまな分野での活用方法が考えられます。私の目的は人を助けるためのロボットをつくること。DJIのミッションであるイノベーションと完璧の限界を広げ、誰もが大空を飛ぶ夢を実現できることを目指していきます。

PROFILE

DJI JAPAN 株式会社 代表取締役

呉 韜 さん

（'08院理工）

「現在でも立命館大学とのつながりが続いており、毎年、弊社でインターンを受け入れています」

2006年立命館大学理工学部ロボティクス学科卒業。

2008年立命館大学理工学研究科修了。同年、オムロン株式会社 技術本部入社。2013年DJI JAPAN 株式会社を設立、同社代表取締役に就任。

10 りつめい JULY 2017 JULY 2017 りつめい 11

医療の費用対効果を評価する 「この治療の費用は、価値に見合ったものなのか」

2014（平成26）年度の日本の医療費（国民医療費）は約41兆円で、年々増加の一途をたどる。その原因は高齢化によるものといわれるが、厚生労働省の審議会が示した医療費の伸びの要因分析によると「高齢化」の影響が1.3%、次いで「医療の高度化等」の影響が1.1%あるという。その1.1%の7割を占めるのが薬剤費・医療材料費である。

村澤秀樹生命科学部助教が所属する下妻晃二郎生命科学部教授の医療政策・管理学研究室は、生命科学部唯一の社会医学系研究室で、健康・医療のデータを用いて、効率的かつ公平な医療資源の配分方法を確立することをメインテーマとして研究が行われている。

医療費が年々増大している日本では、医療の質を保ちつつも財政破綻させないことが最重要課題である。「高齢化を止めることはできないが、限りある医療資源の配分方法を見直すことにより、日本の医療制度を維持することができるかもしれない」と村澤助教は語る。医療の効率性の向上と公平性を犠牲にしない方法が模索されているが、ひとつの取り組みとして医療技術の評価への「費用対効果」の導入が検討されている。日本ではこれまで医療の費用対効果が明確

な形で語られることはなかったが、2012年に中央社会保険医療協議会*費用対効果評価専門部会が創設され、2016年からは費用対効果評価の試行的導入が始まっている。村澤助教らは評価フローの中で第三者的な立場からデータの再分析に携わっている。ヨーロッパ諸国では、医療の費用対効果の研究が進んでおり、その考え方を日本に導入する試みが始まっている。費用対効果を評価する上で重要視されているのが「生活の質：Quality of Life」（以下、QOL）である。

※ 日本の健康保険制度や診療報酬の改定などについて審議する厚生労働大臣の諮問機関

QOLとは

QOLの概念に影響を及ぼした世界保健機関（WHO）の憲章前文によると、「健

康とは、完全な肉体的、精神的および社会的福祉の状態であり、単に疾病または病弱の存在しないことではない。」とある。つまりQOLとは身体面の状態だけで判断するのではなく、社会とのかかわり、家族や友人との関係、経済的環境、信念や生きがいなど、その人を取りまく環境全てが含まれる概念である。例えば、膝に痛みがある人はその痛みによって、友人に会いにいくことができなくなったり、地域の集まりに出られなくなったりと身体の状態によって生きがいが阻害される。治療によって痛みが緩和され、友人に会うことや集まりに参加することができれば、病気そのものが完治したわけではないが、QOLは向上する。

これまでの医療は病気の完治が目標であったが、医療の高度化が進むにつれ、病気がある状態でも自分の生活にどれだけ満足し、人生を謳歌できる状態にまで改善できるかという視点に変化してきた。QOLで、医療的な介入により変化しうる領域を「健康関連QOL」という（図1）。QOLの効用値を測る代表的な方法として「EQ-5D」という評価ツールがある。これは「移動の程度」「身のまわりの管理」「ふだんの活動」「痛み/不快感」「不安/ふさぎ込み」の5つの項目それぞれに、「問題がある」「少し問題がある」など5つのレベルで患者自身が評価をするものである。

医療の費用対効果の分析法

医療の費用対効果の分析法には大きく4つの方法があるが、村澤助教は主に

QOLを評価に取り入れた「費用効用分析」を用いる。医療行為は生命予後の延長とQOLによって評価することができるが、それらを単一の指標としたものが「質調整生存年：Quality Adjusted Life Years」（以下、QALY）である。縦軸をQOLとして、健康な状態を1、死亡を0とした効用値を表し、横軸に時間を示すと、QALYは「QOLの効用値×生存年数」で算出される（図2）。QALYの利点は、QOLを用いることで、別の病気、例えば急性疾患と慢性疾患で費用対効果を比較することが可能になることだ。

費用対効果の評価指標は、「増分費用効果比：Incremental Cost-Effectiveness Ratio」（以下、ICER）を用いる（図3）。ICERは、QALYを1単位増やすために追加のコストがどのくらいかかるかを示すもので、ICERの値が小さいほど、費用対効果が良いということになる。「医療費を抑えるためだけに費用対効



〔写真〕 平林義章

生命科学部

村澤秀樹 助教

Profile Hideki Murasawa

1996年 日本大学農獣医学部応用生物科学科卒業
1998年 東京大学大学院農学生命科学研究科応用動物科学専攻修士課程修了
2001年 東京大学大学院医学系研究科病因・病理学専攻医学博士課程中退
2015年 筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻博士課程修了
2001年～2015年 厚生労働本省 事務官
2015年～2016年 北海道大学大学院医学研究科公衆衛生学分野 博士研究員
2016年4月～ 立命館大学生命科学部 助教

果を測るのではなく、たとえ費用がかかったとしてもそれに見合った価値があるのであれば認められるべき。必要なことは、費用対効果のエビデンスに基づく効率的な資源分配です」と村澤助教は熱を込める。現在、医療経済（評価）学を専門としている村澤助教だが、大学時代は分子生物学を専攻し、厚生労働省

で14年勤務した経歴がある。また北海道では大規模な疫学調査にも携わった。「これまでの経験を生かし、臨床研究と医療経済学をつなぐ役割を担っていきたい」

村澤助教は高い志をもちながら、明日のよりよい医療のために研究を続ける。

図1 生活の質（QOL）を構成する領域

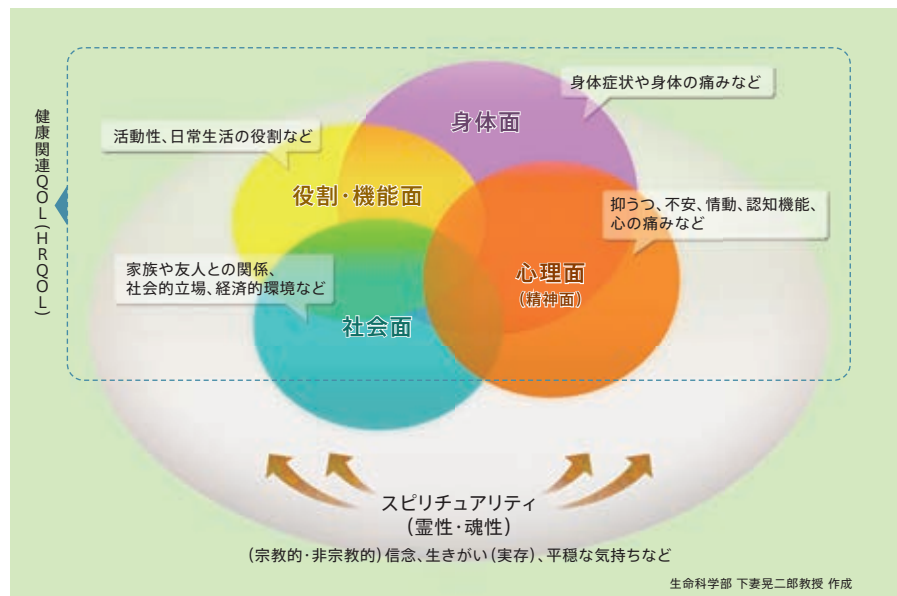


図2 質調整生存年（QALY）の概念図

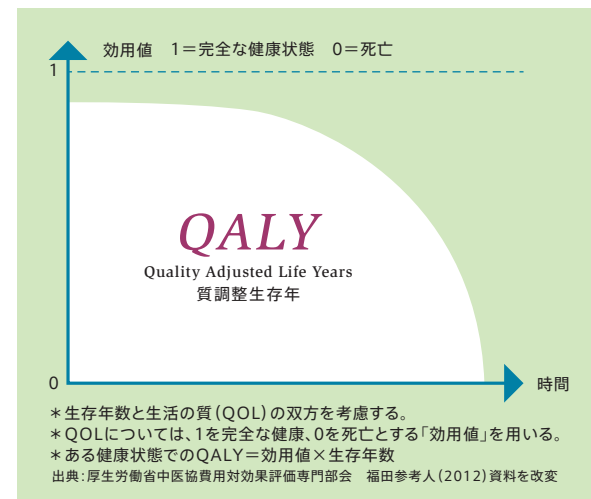
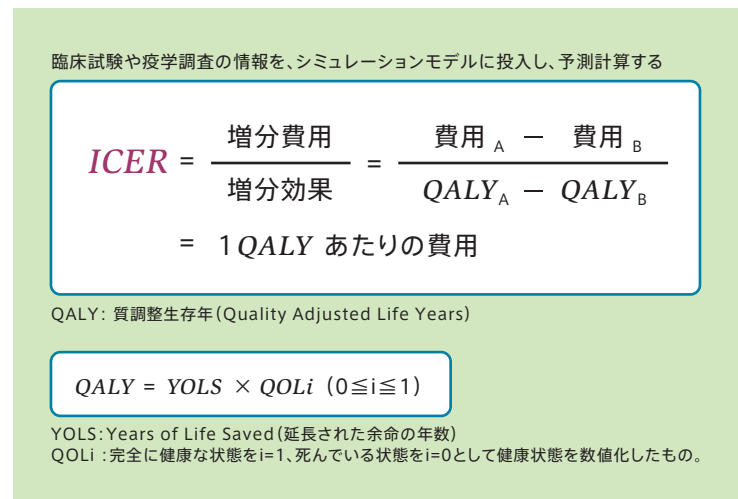


図3 費用効用分析の評価指標：増分費用効果比（ICER）



R オール立命館 2017 in 京都 校友会大会

女性部会
若手部会
代表対談

「100周年」を見据えて 新しい校友会大会へチャレンジ！

2019年に設立100周年を迎える立命館大学校友会。これまでの校友会の歴史を受け継ぎつつ、2017年はこれまで以上に女性・若手校友が参加しやすい校友会を企画している。

五嶋 「オール立命館校友会大会2017 in 京都」の実行委員会には、20～30代の若手校友が多く実行委員として参加していますが、別途、実行委員会の下で若手部会を立ち上げ、2週間に1度「LINEミーティング」を開催し、校友会大会全体の企画検討を行っています。今回の校友会大会は、2年後に迫る校友会設立100周年へ向けて、これまで以上に女性・若手校友のみなさんに参加いただける場となるよう、新しく自由な発想で各企画案を打ち出しています。



房野 若手部会同様に、女性部会としても、過年度の校友会大会以上に女性校友が参加しやすい校友会を目指しています。これまで実施してきた「おしゃれなカフェでの女子会」という雰囲気を受け継ぎつつ、より校友会へ興味を持ってもらい、未来の校友会について語り合うことができる場にしようと計画中です。また、開催時間をお昼に設定することで、家事・仕事に忙しい女性校友のみなさんにも気軽に参加いただける校友会になるよう企画を考えています。



五嶋 若手部会では、立命館大学校友会ならではのつながりや、校友会のスケールメリットを生かしながら、これまで校友会に参加するきっかけのなかった若い校友が参加したく

なる企画を考えました。「校友アーティストの出演企画」、「校友のキャリアアップにつながる企画」、「立命館校友としてのメリットを感じられる企画」の3つの切り口から検討し、京都水族館貸し切りのイベントや「立命館 Music Festival」と題した音楽の祭典など、斬新でワクワクする企画を実行委員会で提案しているところ。



房野 女性や若手校友がたくさん参加していただける校友会であるとともに、これまでの校友会にお越しいただいていた先輩校友のみなさんにも、過年度の校友会以上に満足いただけるような校友会にしたいと思っています。具体的に、懇親パーティーでは立食を基本としつつも、一部着席スペースを設けることで幅広い年齢層の方にもお楽しみいただける場とし、世代や性別を超えて交流を図ることのできるプログラムを用意したいと考えています。

校友会設立100周年へ向けた 試金石としてチャレンジする

房野 立命館大学校友会は、母校の大学昇格を願って、1919年に基金を募るために設立された経緯がありますが、2019年の校友会設立100周年に向けて、今一度校友のみなさんと母校立命館について語り、立命館で学ぶ後輩学生たちと触れ合う場を校友会の一部で設けたいと考えています。これまで校友会活動に参加されていなかったみなさんも一緒に、2年後の校友会設立100周年へ向けて、積極的に校友会活動にご参加いただき、母校立命館とそこで学ぶ後輩たちと共に機運を盛り上げていきたいです。

五嶋 2年後の100周年を見据え、若手部会では「立命館大学校友会若手オールスターズ」と題して、全国の若手校友のネットワークづく

2017年度
校友会
実行委員会



●女性部会長 房野麻紀子('03 院政策)
●若手部会長 五嶋 翔一('10 情理)

り、つながり強化を目標として、さまざまな企画の提案・実施を行っていきたくと考えています。今年の校友会大会をその最大の試金石として捉え、若手部会として積極的に企画立案・運営に関わり、これまで校友会活動への参加が少なかった同世代の校友にも広く校友会活動の面白さを知ってもらいたいと思っています。

全国の女性校友・若手校友へ向けて

房野 今年の校友会大会は、これまでのどの校友会大会よりも、いいところをぎゅっと凝縮したカジュアルな校友会大会となります。これまで時間を気にして参加しづかった方も、「校友会」という言葉が聞きなれない方も、「立命館」という共通のキーワードを持ちながら、気軽に楽しく交流をする気持ちでご参加ください！みなさんとこの秋、ホテルグランヴィア京都でお会いできることを、実行委員一同楽しみにしています。

五嶋 全国の校友のみなさん、今年の校友会大会ではこれまで以上に、日常を超えた新しい出会い、懐かしい再会、心躍る高揚感、立命館でつながる一体感を体験できます。特に若手校友のみなさんにとって、「参加して良かった、立命館の校友っていいね！」と思ってもらえる企画をたくさんご用意しています。ぜひ、学生時代のお友達やご家族、職場の校友のみなさんに広くお声掛けいただき、お祭りに参加するような気軽な気持ちでご参加ください。10月21日、感動と興奮を分かち合えるのを楽しみにしています！



オール立命館 校友会大会 2017 in 京都

日時 2017.10.21(土)
会場 ホテルグランヴィア京都

Special Events

1. ITベンチャー企業「VASILY」 代表取締役CEO 金山裕樹さん('01政策) による講演

困難に立ち向かう勇気を校友へ！
2010年から運営するファッションSNSアプリ「IQON」がApple社とGoogle社が選ぶベストアプリに選出されました!!



2. 立命館が 「京都水族館」をJACK!! R Aqua Night 20～30代交流パーティ

営業後の水族館を貸し切り、立命館校友限定のイベント! 夜の水族館で雰囲気も最高!
非日常な空間でステキな夜を一緒に楽しみましょう!
※20～30代校友対象企画となります。



託児室を開設します 無料 11:00～19:30

会場：ホテルグランヴィア京都内
利用対象：企画のいずれかに参加する校友
申込：インターネット、電話

※託児スペースの関係上、人数に限りがあります。定員になり次第、締め切らせていただきますので、あらかじめご了承ください。



受付開始(予定):7月上旬 ※定員に達し次第、受付を終了します。お申し込みはお早め!

インターネット、またはFAXでのお申し込みを予定しています。
インターネットは大会特設WEBサイト(7月1日オープン予定)から、
FAXは専用申込フォーム(WEBサイトからダウンロード)にてお申し込みください。

本大会の共通チケット(一般校友6,000円、20～30代校友3,000円)で各企画にご参加いただけます!

※企画6は、若手校友(20～30代)限定の企画となっておりますのであらかじめご了承ください。

主催/立命館大学校友会、「オール立命館校友会大会2017 in 京都」実行委員会 共催/立命館大学 後援/立命館アジア太平洋大学

上記以外にも楽しい企画を開催予定です! 毎年、校友会には校友会のイベント参加が初めての方やご家族と一緒に参加される方が多数おられます。この機会にぜひご参加ください!

※上記企画は5月末時点のものです。今後、企画名称・内容・時間等が変更となる可能性がございますのであらかじめご了承ください。

企画1 11:30～12:50 定員:200名 事前申込制 先着順 金山裕樹氏 Special Seminar

会場:5F 竹取の間 対象:全校友および同伴者
講師:株式会社VASILY 代表取締役CEO 金山裕樹さん('01政策)

企画2 13:00～14:15 定員:300名 事前申込制 先着順 R Future Cafe

会場:5F 古今の間 対象:全校友および同伴者
概要:校友同士のつながりを深める参加型企画
学生時代の思い出や校友会の未来についてワイワイガヤガヤ語りましょう!
★コーヒー・焼き菓子等を提供予定



企画3 14:30～15:00 定員:1,300名 事前申込制 先着順 総会

会場:3F 源氏の間、5F 竹取の間 ※両会場を中継
対象:全校友および同伴者
概要:校歌斉唱、校友会長挨拶、議事など

企画4 15:00～17:00 定員:1,300名 事前申込制 先着順 R Festival

会場:3F 源氏の間、5F 竹取の間 ※両会場を中継
対象:全校友および同伴者
概要:全国の校友が一堂に集まる大懇親パーティー

R Music Festival

校友アーティストの演奏と共に
優雅なひとときを!

R de Kanpai

参加者全員で音楽に合わせて
何度もカンパイ! 最高の一体感!
★その他、世代を超えて一緒に
楽しめる企画を多数予定して
います。



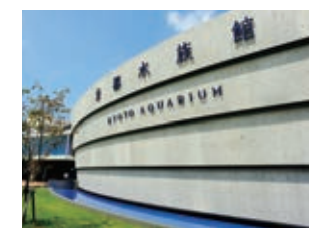
※立食形式(予定)

企画5 17:30～19:00 定員:400名 当日参加可 R salon

会場:5F 古今の間 対象:全校友および同伴者
概要:大人のフリー交流サロン
Festival終了後、引き続き楽しく優雅な時間をお過ごしください。
★アルコール飲料・おつまみ等を提供予定

企画6 19:00～20:30 定員:200名 事前申込制 先着順 R Aqua Night

会場:京都水族館(貸切)
対象:20～30代校友
概要:京都水族館を貸し切り、
巨大水槽の前でグラスを
片手に乾杯!+
食あり、音楽あり、
交流ゲームあり!
★軽食・アルコール飲料・
ソフトドリンク等を提供予定



volume 05

都道府県校友会の系譜

全国に52の活動基盤を置く立命館大学校友会。各地の自然発生的な集まりが支部として発展し、現在の都道府県校友会に編成される過程を概観する。

■初期の校友グループ

都道府県校友会の歴史は本部よりも長い。立命館大学の前身・京都法政学校の第一期生が卒業したのが1903年。現在確認できる最も古い集まりは1904年に60名が出席した「在京校友茶話会」で、その翌年にも京都で14名が出席した「校友小会」の記録が残っている。京都を中心とした初期の校友の活動は、1916年に「校友倶楽部」として発展する。

京都以外では、1911年に「大阪校友会」が、1912年に「東京校友倶楽部」が結成されている。いずれも創立者・中川小十郎を囲む親睦会としての意味合いが強かったものの、以降、京都・大阪・東京の3都市が校友の主な活動拠点となり、後の大学昇格運動と全国組織としての校友会発足への流れを導いていく。

■全国校友会設立以降

1918年12月、大学と専門学校との区分を厳密にする大学令が公布され、緩やかに開催されていた各地の校友会に大きな衝撃をもたらした。1919年1月11日、京都では「大学令に対する母校の将来に関し協議」する会を開いており、同年2月20日に大阪でも臨時総会を開き、校友会の整備を期すべく「建議書」を提出している。母校の大学昇格を望み、そのため

より組織的な募金活動を模索する中で校友会の全国統一を訴えたのだ。

1919年11月23日に全国校友会が発議されるや、翌年1月11日に京都、2月11日に東京、2月20日に大阪でと、それぞれ待ちかねたように支部開会式を行い、支部として再編されていく。また、関西を中心に新たな支部も続々と作られた。1920年に滋賀、1927年に奈良、1929年に兵庫に支部が結成されている。その後、時代の制約を受けながらも新支部設立の動きは続き、1943年までに京都・大阪・兵庫・東京・滋賀・岡山・名古屋・三重および当時「外地」であった台湾・朝鮮・満州の11支部を数えている。

■戦後の再出発

1949年の再建全国大会を機に、校友会は戦後の新たなスタートを切るが、それに先駆け1948年に阪神支部（後に大阪支部と兵庫支部に分岐）が結成されていることに注目したい。110名を集めた阪神支部結成大会のインパクトが全国校友会の再建を促し、全国の校友を刺激したと考えられる。再建からわずか2年の1951年には国内19支部となり、35支部にまで増えた1964年には初の全国支部長懇談会が開かれている。

こうした広がりは校友会を勢いづける一方

で、乱立による不調和が懸念された。1985年、すでにある支部の継続は認めつつも、1県に1支部を原則とする方針を採用し、届出制から承認制へと会則を改めた。この時点で39都道府県に44支部が登録されていたが、その後比較的校友数の少なかった東日本でも立ち上げが進み、1997年の群馬県支部設置を最後に、全都道府県に網羅される。

■再び都道府県校友会として

会則が大幅に改正された1998年は、校友会にとって転換期であった。都道府県支部が「〇〇県校友会」と改称されたのもこのタイミング。すでに校友の数は22万名にのぼり、活躍分野も多岐にわたっていたことから、年齢や男女比などその地方の実情に合わせた役員体制のもと、独自の活動を促すことが狙いであった。かつて一枚岩の全国組織を生んだ各地の校友会が支部としての役割を経て、再び自立した都道府県校友会としての道を歩むようになる。

その地に住まう校友の身近な窓口として、今も昔も母校との縁をつないできた都道府県校友会。近年は52それぞれの個性を打ち出しながら、校友大会やブロック会議などを通じて近隣府県との交流を育み、多様性と一体感が両立する立命館大学校友会ならではのカラーを作り上げている。

NEWS!

100周年応援隊に
高橋智隆さんが
就任しました!

グランドキャニオンに登頂したエボルタやロボット宇宙飛行士キロボなど、個性豊かなロボットで世界を驚かせてきた高橋智隆さん。本号の表紙だけでなく、校友会設立100周年応援隊の一員としてもご協力いただけることになりました。高橋さんからのメッセージは、校友会設立100周年記念特設サイトにてご覧いただけます。



校友会設立100周年応援隊
ロボットクリエイター
高橋智隆さん('98産社)



検索 立命館 校友会 100周年



3.11 復興への願い

2017年度 立命館大学校友会 東日本大震災復興支援事業

東北応援ツアーのご案内

立命館大学校友会では、2012年度から「東日本大震災で大きな被害を受けた地域を訪問することで被災地の活性化に貢献すること」および「現地校友との交流を通して震災について学ぶ契機とすること」を目的とし、「東北応援ツアー」を毎年開催してきました。6年目となる本ツアーは今回で**最後**となります（復興支援事業の活動は継続します）。各コースは下記の通りです（予定）。**応募方法については同封のチラシをご覧ください。**みなさまからの多数のご応募をお待ちしています。

02 FUKUSHIMA COURSE

福島県コース

9月30日（土）▶ 10月1日（日）

目には見えない震災被害を
学習するツアー

福島県と電力の歴史を辿りながら福島県と電力のつながりを考えるほか、コミュニティ福島（福島県環境創造センター 交流棟）やJA会津よつばを訪問し、環境や放射能についての学習、米の全量全袋検査の視察見学など、福島県の農業、観光・旅行業界の風評被害について正しく学びます。また、会津の酒蔵や鶴ヶ城などの観光名所も訪問する予定です。



郡山市引（めのびき）高原風力発電所

鶴ヶ城

幕末の戊辰戦争で白虎隊をはじめとした会津藩と新政府軍の激戦地となった鶴ヶ城。「会津若松城」とも呼ばれ、日本で唯一の赤瓦の天守閣。



松島

日本三景のひとつである松島。大小260余りの島々が浮かぶ美しい景観が魅力の風情豊かな観光地。

01 IWATE COURSE

岩手県コース

9月9日（土）▶ 10日（日）

岩手県の北部を巡るツアー

三陸鉄道の社員によるガイド付きの震災学習列車への乗車、震災学習のほか、龍泉洞、北山崎、NHK朝ドラ「あまちゃん」の舞台など北三陸を代表する景観を堪能します。また、津波で壊滅状態になった田老地区を見学し、立命館大学の学生が建設した「ODENSE（おでんせ）」などへの訪問も予定しています。



震災学習列車

龍泉洞

日本三大鍾乳洞のひとつであり、洞内に棲むコウモリと共に国の天然記念物に指定。

03 MIYAGI COURSE

宮城県コース

11月11日（土）▶ 12日（日）

防災や震災について学び、
海の幸山の幸を食すツアー

震災を伝える場所（慰霊碑を守る社務所）として建設された「^{くりあげ}関上の記憶」では、語り部の話を聞くなど防災や震災について学ぶほか、校友の経営する（株）木の屋石巻水産、（株）ささ圭を訪問・見学します。また松島港から遊覧船で島巡りをした後は、昼食に「寿司の街」と呼ばれる塩竈でお寿司を味わう予定です。



関上の記憶



私たちも「校友会未来人財育成基金」を応援します！

立命館大学校友会は、校友会未来人財育成基金の募集を通じて、先輩から後輩へ支援の輪を広げています。校友はもちろん、校友会から支援を受けた在学生からも寄付が生まれています。

循環型の後輩支援文化づくりを目指して

校友会の支援を受けた学生から、在学中に校友会未来人財育成基金への寄付をいただきました

立命館大学校友会は、校友会未来人財育成基金（以下、未来人財）の支援の輪を広げるために、「大学や校友会から支援を受けた学生が、在学中または卒業後に後輩学生たちへ寄付を行う循環型の後輩支援文化づくりを目指す」活動を行っています。

在学生による未来人財への寄付の第一号は、女子相撲世界一に輝き、校友会奨学金を受給した相撲部・山中未久さん（'16スポ健）。昨年、未来人財の趣旨に賛同したことから、寄付をいただきました。

今年も、校友会奨学金を受給した相撲部の稲葉映美さん（'17スポ健）、女子陸上競技部の菅野七虹さん（'17経済）、水泳部の馬淵優佳さん（'17スポ健）から寄付の申し出があり、また、未来人財から支援を行っている「+R個人奨励奨学金」受給者の河田麻実さん（'17文）、早川友浩さん（'17産社）からも「自分たちが支援を受けたように後輩たちのために役立ててほしい」と寄付の申し出がありました。

このように循環型の後輩支援文化づくりが着実に進んでいます。



「校友会奨学金」受給者
稲葉映美さん（'17スポ健）
相撲部・富山県出身



「校友会奨学金」受給者
菅野七虹さん（'17経済）
女子陸上競技部・京都府出身



「校友会奨学金」受給者
馬淵優佳さん（'17スポ健）
水泳部・兵庫県出身



「+R個人奨励奨学金」受給者
河田麻実さん（'17文）
岡山県出身



「+R個人奨励奨学金」受給者
早川友浩さん（'17産社）
愛知県出身

寄付実績 （2017年3月31日時点）

2,718
の個人・団体・法人から
123,486,688 円

「オール立命館校友大会 2017 in 京都」開催記念 「校友会未来人財育成基金」特別募集のご案内

「オール立命館校友大会 2017 in 京都」の開催を記念して、未来人財の特別募集を行います。校友一人ひとりが主人公となり、未来を切り拓く人財を育成する活動に、ぜひご支援ください。

特別募集要項

今回の特別募集に応じてくださったみなさまのお名前・団体名・法人名、卒業年・卒業学部、お申込口数は、立命館大学と立命館大学校友会で共有のうえ、会報「りつめい」270号同封の「寄付者芳名録」に掲載させていただきます。

申込期間 2017年7月1日（土）～7月31日（月）

申込金額 【継続のご寄付】1口（1口1,000円）以上
【一括のご寄付】10口（1口1,000円）以上

★昨年の特別募集までは校友大会パンフレットに掲載させていただいていましたが、今回は未来人財の「寄付者芳名録」に掲載いたします。

個人・団体	継続のご寄付	●インターネット 校友大会特設WEBサイトから、特別募集申込画面にアクセスいただき、お申込ください。 ●お電話 立命館大学校友会事務局へお電話ください。その後、手続き方法の詳細をご案内させていただきます。
	一括のご寄付	●振込用紙 同封の「一括のご寄付用 振込用紙」に必要事項をご記入の上、各金融機関にてお振込ください。 ●インターネット 校友大会特設WEBサイトから、特別募集申込画面にアクセスいただき、お申込ください。

法人

校友大会特設WEBサイトから問合せ用紙をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ「立命館 総務部 寄付事務局」までFAXにて送信してください。その後、手続き方法の詳細をご案内させていただきます。

校友大会特設WEBサイトは7月上旬オープン予定です。校友会ホームページをご覧ください。
立命館大学校友会 URL <https://alumni.ritsumei.jp/>

税制上の優遇措置について 本寄付は立命館大学に対する寄付金であり、税制上の優遇措置を受けることができます。

お問合せ先

[受付時間] 土日祝を除く 9:30～17:00

■本特別募集に関しては
立命館大学校友会事務局 TEL 075-813-8216
■税制上の優遇措置に関しては
立命館 総務部 寄付事務局 TEL 075-813-8110

特別募集にお申込の方へ

立命館特製グッズを プレゼント！

今回の特別募集にお申込の方全員に、立命館特製のオリジナル「クリアファイル」をプレゼントします！後日発送させていただきます。

2枚セットで
プレゼント



2017年度 校友会幹事会報告

2017年6月3日、立命館朱雀キャンパスで、2017年度幹事会が開催された。新役員体制での開催で、校友会三役(会長・副会長・監事)、常任幹事、幹事の約300名が全国から集まった。

冒頭、村上健治校友会長より、『『校友会と大学の関係は車の両輪』であり、大学・学生と校友がお互いに勇気を与え、励まし合い、切磋琢磨する関係を続けながら、世界にはばたく立命館大学を目指していこう』との呼びかけがあった。続いて、吉田美喜夫立命館総長が学園のグローバル化に向けた取り組みを中心に紹介し、「学生が卒業後に活躍する社会を創造しながら、新しい変化に対応できる力を若いうちに身に付けていくことが大学の責任であり、これからの大学の改革に支援をお願いしたい」との来賓挨拶があった。その後、村上会長が議長となって議事を進め、報告、審議が行われた。



報告事項

常任幹事会にて審議・承認された以下の事項について、報告が行われた。

- 2017～2019年度立命館大学校友会本部役員の選任について
- 校友会顧問の選任について
- 校友会名誉幹事の選任について
- 「オール立命館校友大会2017 in 京都」の全体概要について
- 「オール立命館校友大会2018 in 仙台」の開催概要について
- 校友会設立100周年記念事業の進捗報告について
- 未来人財育成基金募集推進活動の現状と2017年度の取組みについて
- 東日本大震災復興支援特別事業の進捗報告について
- 海外校友会の新設について

審議事項

以下の事項について審議が行われ、承認された。

- 立命館大学校友会会則の一部改正案について
- 学校法人立命館評議員候補者の推挙について
- 2016年度事業報告および2016年度決算報告について
- 2017年度事業計画案および2017年度予算案について

2016年度決算

(単位：円)

●収支決算書(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

●経常収入の部

科 目	決 算 額
会費収入	221,620,000
資産運用収入	1,256,053
組織強化事業収入	2,473,939
校友大会事業収入	5,784,000
広報事業収入	26,102,023
母校支援事業収入	0
復興支援事業収入	159,000
その他の収入	174,040
経常収入合計	257,569,055

●経常支出の部

科 目	決 算 額
組織強化事業支出	44,573,095
校友大会事業支出	56,530,520
広報事業支出	79,968,345
母校支援事業支出	20,509,354
復興支援事業支出	7,523,243
校友会記念事業支出	5,923,502
人件費支出	33,445,735
運営費支出	26,230,205
経常支出合計	274,703,999

経常収支差額	△17,134,944
--------	-------------

●貸借対照表(2017年3月31日現在)

●資産の部

科 目	決 算 額
現金預金	59,291,380
立替金	21,005
前払金	168,750
未収金	150,000
基金積立金預金	985,434,947
資産合計	1,045,066,082

●その他資金収入の部

科 目	決 算 額
前期末未収金収入	0
立替金回収収入	4,315,394
預り金収入	45,340,894
前払金収入	128,550
期末未収金	△150,000
その他資金収入合計	49,634,838

●その他資金支出の部

科 目	決 算 額
立命館大学基金積立金支出	0
その他の支出	30,000
前期末未払金支出	270,188
立替金支払支出	4,092,822
預り金支払支出	41,244,663
前払金支払支出	168,750
期末未払金	△309,581
その他資金支出合計	45,496,842

その他資金収支差額	4,137,996
-----------	-----------

当期収支差額	△12,996,948
前期繰越収支差額	72,288,328
次期繰越収支差額	59,291,380

●負債の部

科 目	決 算 額
未払金	309,581
預り金	57,465,000
負債合計	57,774,581

●正味財産の部

科 目	決 算 額
基金積立金	985,434,947
運用財産	1,856,554
正味財産合計	987,291,501

負債および正味財産合計	1,045,066,082
-------------	---------------

2017年度予算

(単位：円)

●収支予算書(2017年4月1日から2018年3月31日まで)

●経常収入の部

科 目	予 算 額
会費収入	221,610,000
資産運用収入	600,000
組織強化事業収入	3,600,000
校友大会事業収入	5,100,000
広報事業収入	28,100,000
復興支援事業収入	180,000
その他の収入	160,000
経常収入合計	259,350,000

●経常支出の部

科 目	予 算 額
組織強化事業支出	54,400,000
校友大会事業支出	38,200,000
広報事業支出	81,500,000
母校支援事業支出	23,145,000
復興支援事業支出	7,830,000
校友会記念事業支出	5,800,000
人件費支出	33,350,000
運営費支出	23,840,000
経常支出合計	268,065,000

経常収支差額	△8,715,000
--------	------------

●その他資金収入の部

科 目	予 算 額
前期末未収金収入	150,000
立替金回収収入	21,005
預り金収入	0
その他資金収入合計	171,005

●その他資金支出の部

科 目	予 算 額
立命館大学基金積立金支出	0
その他の支出	0
前期末未払金支出	309,581
立替金支払支出	0
預り金支払支出	0
前払金支払支出	0
その他資金支出合計	309,581

その他資金収支差額	△138,576
-----------	----------

予備費	0
-----	---

当期収支差額	△8,853,576
前期繰越収支差額	59,291,380
次期繰越収支差額	50,437,804

立命館大学校友会本部役員(2017～2019年度)

三役			
会長	村上 健治 ('70産社)	前・大和ハウス工業(株)代表取締役社長	
副会長	高崎 秀夫 ('67法)	(株)京都銀行代表取締役会長	
	小野 守通 ('69経営)	(株)タクト相談役	
	鮎井 憲 ('69経済)	元・(株)南都銀行代表取締役専務取締役	
	岡野 益巳 ('72理工)	(株)岡野組代表取締役	
	福元 寅典 ('72経済)	前・(株)南日本新聞社専務取締役	
	林 幸雄 ('73産社)	(株)電広エイジェンシー代表取締役社長	
	伊藤 博行 ('74理工)	元・全日本空輸(株)代表取締役副社長	
	佐藤友美子 ('75文)	追手門学院大学地域創造学部地域創造学科教授	
監事	高橋祥二郎 ('79経済)	(株)滋養銀行取締役頭取	
	森川 典子 ('81産社)	ボッシュ(株)取締役副社長	
	奥村 陽一 ('86院経営)	立命館大学経営管理研究科長	
	佐竹 力総 ('70法)	(株)美濃吉代表取締役社長	
	伊藤 昇 ('71法)	元・(学)立命館総務部長	
	鈴木 治一 ('91法)	植松・鈴木法律事務所弁護士	

常任幹事			
佐伯 希彦 ('63理工)	飯田 俊之 ('82産社)		
村岡 治 ('64理工)	佐野 哲夫 ('82経済)		
荒木 幸彦 ('65法)	櫻井久仁子 ('83産社)		
渡辺 三彦 ('68理工)	竹内美奈子 ('83法)		
穴吹 学 ('71経営)	山岡 祐子 ('83経済)		
北尾 陽 ('71経営)	安川 淳史 ('84経済)		
坂口 博翁 ('71院文)	安部 香一 ('86産社)		
川下 史朗 ('72経済)	山添 祥統 ('86経済)		
馬場 幸蔵 ('76産社)	木田 成也 ('88産社)		
水田 雅博 ('76経済)	小野 朋子 ('92文)		
加藤美佐子 ('77文)	乾 光孝 ('97文)		
吉田 郁雄 ('77経済)	林 夏寧 ('99国関)		
初村 雅敬 ('78経済)	柴田 晃 ('02院政策)		
木村 愛子 ('79文)	安井 亜希 ('07院法)		
菊池 貞雄 ('81産社)	紙谷 和典 ('07院MOT)		
柴田 順夫 ('81経営)			

委員会

総務委員会							
担当副会長	小野 守通 ('69経営)	委員	木村 武志 ('80理工)	委員	吉川 拓哉 ('01経営)	委員	田村 一也 ('07産社)
委員長	佐野 哲夫 ('82経済)		青柳 良明 ('82文)		小澤 拓己 ('03理工)		原田 育子 ('09文)
委員	荒木 徹 ('59理工)		佐伯 祐左 ('95院理工)		河原 真弓 ('03経営)		山根 翠 ('10情理)
	西村 義行 ('60経済)		姫野 直人 ('97産社)		宮川 友子 ('05法)		大谷 俊介 ('10院法科)
	飛鳥井雅和 ('64法)		大倉 昌子 ('01法)		山口 統也 ('06経済)		宮本 美奈 ('12院国関)

財務委員会							
担当副会長	鮎井 憲 ('69経済)	委員	奥田 昭一 ('70理工)	委員	木村 保和 ('75経済)	委員	豊田 耕三 ('01文)
委員長	佐伯 希彦 ('63理工)		重松 英樹 ('74経営)		嵯峨 法夫 ('75法)		松田 全功 ('10院経営)

広報委員会							
担当副会長	福元 寅典 ('72経済)	委員	山岡 祐子 ('83経済)	委員	森 力 ('95経済)	委員	榎本 暁子 ('03国関)
委員長	加藤美佐子 ('77文)		安達 正哉 ('84法)		乾 光孝 ('97文)		西村 仁 ('06院経営)
委員	田中保太郎 ('67経済)		田下部和弘 ('85法)		加藤 良直 ('99経済)		安井 亜希 ('07院法)
	高橋 英子 ('78産社)		野口 義文 ('86法)		人見 勅輔 ('02法)		五嶋 翔一 ('10情理)
	宮西 徳明 ('81法)						

東日本大震災復興支援特別委員会							
担当顧問	辻 寛 ('62法)	委員	藤川 行江 ('69法)	委員	小野寺正耕 ('96経済)	委員	仲川 将史 ('06法)
担当副会長	林 幸雄 ('73産社)		今中 智幸 ('94法)		田邊 裕 ('99経営)		黒澤 健 ('11経営)
委員長	川下 史朗 ('72経済)						

校友会設立100周年記念事業特別委員会									
担当顧問	西村 義行 ('60経済)	副委員長	仲 治貴 ('69経営)	委員	宮野 正喜 ('73理工)	委員	内藤ひとみ ('09経営)		
担当副会長	小野 守通 ('69経営)		宮崎 房子 ('59経済)		小幡 豊 ('78経済)		アドバイザー 坂本 和一 教職員校友		
委員長	荒木 幸彦 ('65法)								

校友会未来人財育成基金募集推進特別委員会							
担当顧問	西村 義行 ('60経済)	委員	北川 猛 ('74経済)	委員	三村 智春 ('85産社)	委員	豊田 耕三 ('01文)
担当副会長	福元 寅典 ('72経済)		水田 雅博 ('76経済)		岡田 直之 ('87産社)		丸井 久明 ('01経営)
委員長	林 幸雄 ('73産社)		加藤美佐子 ('77文)		真鍋 佳樹 ('88経営)		駒形 哲也 ('03院政策)
副委員長	初村 雅敬 ('78経済)		飯田 俊之 ('82産社)		岩崎 明 ('94法)		石塚 慶如 ('08院法科)
	柴田 順夫 ('81経営)		森島 正信 ('83文)		姫野 直人 ('97産社)		
委員	穴吹 学 ('71経営)		中西 あき ('85文)		大倉 昌子 ('01法)		

2017年度 新卒幹事

法学部	三月田 悠	文学部	河田 麻実	情報理工学部	鶴田 拓也	スポーツ健康科学部	若林 凜世
経済学部	菅野 七虹	理工学部	清水 浩文	映像学部	鈴鹿 友周		
経営学部	久乗亜由美	国際関係学部	大島 翔悟	薬学部	高室ひと穂		
産業社会学部	早川 友浩	政策科学部	池内 大貴	生命科学部	湯浅 瑞季		



行事報告

2017年2月中旬～5月末に行われた各団体の行事の一部を紹介しています。
*詳しくは校友会ホームページをご覧ください
<http://alumni.ritsumeijp>

都道府県校友会 / 海外校友会

2/19

長三角校友会 設立総会

40名 京潤大夏15A



5/3

サイゴン校友会IN京都 懇親会

10名 京町しずく京都駅前店



5/6

ニューヨーク校友会 懇親会

9名 和食レストラン「TEISUI」



5/9

ロスアンゼルス校友会 懇親会

9名 和食レストラン神楽



5/20

長崎県校友会 総会

33名 長崎稲佐山観光ホテル



地域校友会

4/15

佐世保比叡会 総会

43名 セントラルホテル佐世保



4/22

愛知県校友会東三河支部 総会

63名 ホテルアソシア豊橋



5/15

九州女子会 in 柳川

30名 御花



5/15

兵庫県校友会西宮支部 総会

28名 日本盛・棟瓦館(花ざかり)



5/14

奈良県北部校友会(立命若草会) 総会

100名 ホテル日航奈良



職域校友会

3/9

明治安田生命 Rits 会 総会

35名 ホテル東京ガーデンパレス



3/11

京都府庁衣笠会 総会

72名 東華菜館(本店)



4/15

第48回 Rits 不動産ネットワーク例会・懇親会

44名 京都タワーホテル



5/19

南都銀行立命会 総会

102名 奈良ロイヤルホテル



5/24

西宮市役所立朋会 総会

31名 雅苑 西宮



サークルOB・OG会

3/18

会計学研究会OB会 総会

47名 京都タワーホテル



3/26

写真研究会OB会 総会

25名 レストラン菊水



5/28

立命館大学陸上競技部創部90周年記念式典

320名 グランドプリンスホテル京都



今年も校友会新卒幹事が誕生

3月13日、朱雀キャンパス校友会会議室で「2016年度校友会新卒幹事と校友会副会長との懇談会」が開かれ、各学部から選出された新卒幹事および、校友会を代表して福元寅典副会長が出席しました。

また、6月3日の幹事会では、幹事として村上健治校友会会長から指名・選任されたことが報告されました(新卒幹事一覧は21ページに掲載)。



今年も「立命寄席」が開催されました

4月22日、立命館大学落語研究会OBの桂塩鯛・桂小春團治両師匠による「立命寄席」が開催されました。今回で11回目となるこの催しは立命館大学校友会近畿ブロック文化事業として位置づけられており、会場である大阪市北区の天満天神繁昌亭には150名の校友が前売り券を手に訪れました。また、落語研究会の現役生も応援に駆けつけ、後輩学生と校友とが交流す

る貴重な機会となりました。

「時うどん」を前座に、「代書屋」「しじみ売り」の古典と「妻の旅」行」「とても大好きDRYもん」の創作落語を両師匠が2演目ずつ披露。幕間には校歌や応援歌が三味線で奏でられ、人情味溢れる囃にはしみりしながらも、巧みな話芸に観客らは膝を叩き、会場は笑い声に包まれました。



今後の行事予定

2017年8月～9月に予定されている総会です(判明分)
※7月の行事予定については前号を参照願います。

*詳しくは校友会ホームページをご覧ください
<http://alumni.ritsumeijp/>

校友会・グループ	日程	会場	問い合わせ先	
沖縄県校友会 総会	8/5(土) 18:00	ホテルロイヤルオリオン	島袋 健	090-7587-0858
兵庫県校友会 新人歓迎会&異業種交流会	8/5(土)	風月堂ホール	寺田 豊	terada@sonoda-u.ac.jp
立命館学園会計人会 30周年記念総会	8/26(土)	京都ホテルオークラ	上田税務会計事務所内	075-672-4361
岡山県校友会 総会	8/26(土) 16:00	アークホテル岡山	守屋 博司	086-232-0945
熊本県校友会 総会・懇親会	8/26(土) 17:30	鶴屋百貨店カーネーションサロン	飯田 俊之	090-1386-8809
オール立命館筑後会 総会・懇親会	9/2(土) 18:30	久留米ホテルエスプリ	久間 康弘	090-8396-1498
広島県校友会 65周年記念総会	9/2(土)	メルパルク広島	足羽 真一	080-5231-1200
大阪校友会 総会	9/2(土)	太閤園	立命館大阪梅田キャンパス	06-6360-4895
島根県校友会 総会	9/2(土) 14:00	サンラポーむらくも	和田 裕之	080-5238-7457
福島県校友会 総会	9/2(土) 15:00	LT WEDDING AND PARTY EMPORIUM (エルティふくしま)	馬場 幸蔵	024-922-4964
新潟県校友会 総会	9/9(土) 14:00	アートホテル新潟駅前	渡邊 剛	090-7949-6646
宮崎県校友会 総会	9/30(土)	ホテルメリージュ宮崎	南 英輝	0985-44-1975

SPORTS

スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化センター
077-561-3977

※掲載中の所属・回生などは開催時点のもの

男子陸上競技部

第62回草津市駅伝競走大会
男子陸上競技部員が大会をサポート

「第62回草津市駅伝競走大会」が2月12日、びわこ・くさつキャンパス（BKC）を舞台に行われ、男子陸上競技部員が監察および記録係として運営に協力、専門的な立場から大会をサポートするなどして地域の人々と交流を深めました。

大会には、市内の小・中学生から一般ランナー、本学の学生団体まで120を超えるチーム（約1,000名）が参加。オープン参加した本学部員と共に心地良い汗を流しました。



体育会

平成28年度滋賀県スポーツ顕彰
ならびに滋賀県民スポーツ賞表彰式

「平成28年度滋賀県スポーツ顕彰ならびに滋賀県民スポーツ賞表彰式」が2月17日、滋賀県庁で行われ、アジアラグビーチャンピオンシップ2016に日本代表として出場しチームの優勝に貢献したラグビー部の古川聖人選手（経済3）ら多くの体育会クラブ（個人・団体）が県民スポーツ賞を受賞しました。

＜受賞者、団体＞ ※敬称略

●個人

女子陸上競技部	梅原紗月（スポ健4）
カヌー部	佐山建人（経済4）
カヌー部	新岡浩陽（スポ健4）
男子陸上競技部	原田睦希（スポ健2）
男子陸上競技部	藤田深太郎（スポ健1）
ラグビー部	古川聖人（経済3）
トリアスロン部	細矢祐香（スポ健2）

ボート部	藤井香菜（スポ健3）
ボート部	奥井悠子（スポ健4）

●団体

カヌー部

アメリカンフットボール部

女子陸上競技部

日本選手権20km競歩で
河添選手が4位と健闘

8月にロンドンで開かれる「第16回世界陸上競技選手権大会」の代表選手選考会を兼ねた「第100回日本陸上競技選手権」の男子・女子20km競歩は2月19日、兵庫県六甲アイランド甲南大学周辺コースで行われ、女子20kmに出場した河添香織選手（政策3）が1時間33分35秒の好タイムで4位と健闘。河添選手は続く3月19日に行われた「第11回日本学生20km競歩選手権大会」でも1時間33分09秒の自己新で2位と活躍しました。



河添選手（左） 写真提供／月刊陸上競技

剣道部

シドニー大学剣道部を訪問
剣道で国際交流

3月9～13日、剣道部員15名がオーストラリアのシドニー大学を訪問し、同校剣道部と団体戦や合同稽古、現地の子どもへの指導などを共に行い、交流を深めました。シドニー大剣道部には、本学の部員数（約70名）を超える100名が所属しており、日本で生まれた剣道がオーストラリアでこれだ



けの人たちに愛されていることに部員たちは驚きました。また、普及に尽力する指導者の多さなどに感銘を受け、今回の交流を通じて、自分たちの剣道に対する姿勢を確認するいい機会となりました。

相撲部

国際大会で今選手が
創部以来初無差別級で優勝

4月16日、大阪府堺市大浜公園相撲場において開催された「第5回国際女子相撲選抜堺大会」において、相撲部の今日和選手（国関2）が、無差別級で優勝、重量級3位の成績を収めました。無差別級での優勝は創部以来初の快挙です。また、コーチ兼選手を務める山中未久選手（職員）も、軽量級において優勝を収めました。



今選手（右）と山中選手（左）

CULTURE/ART

文化・芸術

問い合わせ先：学生オフィス
075-465-8167

※掲載中の所属・回生などは開催時点のもの

立命館ローバース

活動再開の集いを開催

2月26日、衣笠キャンパスで「立命館大学ローバース活動再開の集い」を開催しました。ローバースとは、ボーイスカウトの18歳以上の男女の活動組織であるローバースカウトのことで、活動団体は全国の大学で組織されています。

本学のローバースカウト活動は「ボーイス



カウト京都第90団」として1997年に発団後、団員の減少などで2014年3月に休団。活動を休止していましたが、幼少期から地元でボーイスカウト活動をしていた八里智穂さん（産社3）がSNSなどを駆使してボーイスカウト経験者に呼びかけ、「立命館ローバース」として再結成。昨年10月には登録団体としても承認されました。今回の復団にあたり、OB・OGを中心として組織される育成会も発足し、その会長に門川大作・京都市長が就任されました。

和太鼓ドン

和太鼓ドンとルーマニア来日団が交流

3月27日、来日中のルーマニアで日本語を学ぶ高校生から社会人までのグループが本学を訪れ、出迎えた和太鼓ドンの部員らと和太鼓演奏&体験などを通じ交流を深めました。和太鼓ドンは、オリジナル曲の「無礼講」「宴」などを披露。息のピッタリ合った和太鼓のパフォーマンスに参加者は時を忘れ聴き入っていました。



漫画研究会

京都府警と連携し性犯罪を未然に防ぐための啓発マンガを制作

近年、女性が夜道でイヤホンやスマホを使用しているときに性犯罪に巻き込まれるケースが多くなっています。その被害の未然防止を目的とした4コマ漫画を、本学漫画研究会と京都府大学安心・安全推進協議会の協働で制作しました。



池西さん（右から2番目）

くわしくはホームページで！ <http://www.ritsumei.ac.jp/sports-culture/>

漫画を執筆した漫画研究会の池西和貴さん（文2）に対して2月28日に京都府警察本部から感謝状が贈られたほか、漫画は啓発チラシとして府内の全46大学・短期大学に配布される予定です。

能楽部

第34回立命新能を開催

4月24日、衣笠キャンパスにおいて能楽部による「第34回立命新能」が開催されました。キャンパス内で本格的な新能を行うのは全国でも本学だけです。この日も、以学館前に特設舞台を組み、日が暮れると周囲に篝火をたいて、演目がスタートしました。この日に向けて稽古を積んできた部員たちが、舞囃子「養老」や能「船弁慶」を披露し、毎年の公演を楽しみにしてくださっている地域住民や卒業生、また学生らを魅了しました。



モダンジャズバレエ部・京炎そでふれ!おどりっ

大船渡市「平成29年度碓石海岸観光まつり」に学生団体が出演

5月4・5日に岩手県大船渡市で開催された「平成29年度碓石海岸観光まつり」に、モダンジャズバレエ部と京炎そでふれ!おどりっつの2団体が参加しました。本学の学生団体の参加は今年で5回目を迎えました。2日間とも好天に恵まれ、会場には地元の方々など多くの来場者がありました。どちらの団体も、踊りを披露するだけでなく事前に簡単な振り付けを用意し、来場者を巻き込んで一緒



に踊るなど工夫を凝らし、会場に一体感をもたらしました。

CAMPUS ACTIVITIES

学生活動

問い合わせ先：広報課
075-813-8146

※掲載中の所属・回生などは開催時点のもの

障害学生支援室

学校生向けの
『ミニ・オープンキャンパス』を開催

2月21日、衣笠キャンパスにおいて、障害学生支援室の学生サポートスタッフが中心となり、京都府立聾学校（酒井弘校長）の生徒に向けた『ミニ・オープンキャンパス』を開催しました。

聾学校の生徒から、「健聴者との接点が少ない」「これまで大学へ進学した先輩が少ない」などの理由から、大学に進学したいと考えていながら二の足を踏むケースがあるということを知り、「もっと大学を身近に感じてもらおう」と企画しました。会には同校の中等・高等部から8名が参加。キャンパスツアーや交流会、模擬授業などを通じ、多くの学びを体験してもらいました。企画リーダーの森重さん（映像2）は、「参加者から（サポートのあり方、やり方などについて）学ぶことも多く、とても参考になりました。今後も障害者サポートの充実につながる企画を考えることはもちろん、障害のある学生が安心して通える環境づくりに努めていきたい」と今後の抱負を話しました。



スポーツ健康科学部・海老研究室がホテルと協働でメニューを企画開発

スポーツ健康科学部・海老研究室(海老久美子教授)は、びわ湖大津プリンスホテルのbuffetレストラン「Lake View Dining Biona(レイクビューダイニング ビオナ)」(岡本賢治料理長)と協働で健康栄養学の知見を取り入れたメニューを企画開発しました。料理は「滋養の健康」をテーマとし、滋養の食材や有機野菜などがふんだんに使われています。今後は、「おいしさ」を伝える「食のQOL(Quality of life)プログラム」として、季節ごとに新たなメニューの企画開発を進める予定です。



絶滅危惧種・琵琶湖固有種ホンモロコを絶滅から守る

薬学部細胞工学研究室の高田達之教授と檜垣彰吾助教らのグループは、国立遺伝学研究所、滋賀医科大学および琵琶湖博物館と共同で、絶滅危惧IA類に指定されている琵琶湖固有種ホンモロコの精原細胞(精子のもととなる細胞)のin vitro培養により、受精能をもつ精子の作製方法を開発し、親魚を必要としない精子分化を可能にしました。

この成果は、Scientific Reports(オンライン版)で発表しました。本研究成果により、琵琶湖固有魚の絶滅後でも、実験室でその精子形成過程を再現することが可能となり、さらに精巢内では半年を要する精子形成が1カ月に短縮できます。これは、新たな雄性配偶子の保存方法としてのみならず精子分化メカニズムの解析にも有効と考えられます。



「株式会社立命館ぶらす」が障がい者雇用を進める特例子会社に認定

学校法人立命館を親会社とする「株式会社立命館ぶらす(以下、立命館ぶらす)」が、3月1日付で、京都西陣公共職業安定所より、障がい者雇用を進める特例子会社としての認定を受けました。学校法人の子会社が「特例子会社」の認定を受けるのは、西日本では初めてのケースです。

今回の認定を受け、3月10日、特例子会社認定書授与式および立命館ぶらすの見学会が、衣笠キャンパスで行われました。京都西陣公共職業安定所の笹原弘美所長より認定書を授与された学校法人立命館の志磨慶子常務理事は、「本学では、多くの障がいのある学生が熱心に学んでいる。多様な学びの場の創出に努めてきた大学として、雇用の観点からも貢献していきたい」と話し、立命館ぶらすの澤田功代表取締役も、「今後、立命館大学で学ぶ障がい学生のインターンシップ受け入れなども積極的に検討していきたい」と抱負を語りました。



笹原所長(左)と志磨常務理事(右)

キャンパスアジア・プログラムが文科省「世界展開力強化事業」の事後評価でS評価を獲得

文部科学省「大学の世界展開力強化事業」(平成23年度採択分)のタイプA-I(日中韓のトライアングル交流事業)の事後評価において、文学部の「東アジア次世代人文リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス」(通称:日中韓キャンパスアジア・プログラム)が、最高評価のS評価を獲得しました。3カ国以上の共同教育に対する普遍的なモデルを提供したことが、我が国の大学教育のグローバル展開力の強化に対する貢献として高く評価され、2014年の中間評価に続き、採択された10校の中で唯一のS評価を獲得した私立大学となりました。

た。日中韓キャンパスアジア・プログラムは、これまでの成果を基盤として2016年度より常設化され、「文部科学省 平成28年度大学の世界展開力強化事業」に2期連続で採択されています。



プログラム参加者

東日本大震災から6年「いのちのつどい」を開催

3月11日、立命館大学国際平和ミュージアムで、「3.11追悼企画 いのちのつどい」を開催しました。この企画は、東日本震災で亡くなられた方々を追悼するとともに、被災された方々や復興への歩みを進める地域に思いを馳せ、寄り添うことを誓う企画として、2011年の発災の翌年度から毎年実施しているもので今回が6回目。会には、学園関係者、地域の方々、連携協力協定を締結している福島県庁の方々など約120名が参加。シンポジウムのほか追悼式典、学生の活動報告、展示企画などが行われ、それぞれの未来について学びを深めました。



献花の様子

2016年度後期立命館大学学位授与式(学部・大学院)を挙

3月20日に大阪いばらきキャンパスと朱雀キャンパス、21日に衣笠キャンパス、22



日にびわこ・くさつキャンパスで、「2016年度後期立命館大学学位授与式(学部・大学院)」を挙行し、6,492名の学部生、976名の大学院生が新しい門出を迎えました。

2017年度前期立命館大学・大学院入学式を挙

4月2日に京都市勧業館みやこめっせにて、「2017年度前期立命館大学・大学院入学式」を挙行しました。大学に7,894名、大学院に1,061名と新しい仲間を迎えたほか、世界27カ国・地域から541名の留学生も入学しました。



寄付金で購入した書籍の利用が立命館大学OICライブラリーで始まる

「BOOKS FOR BOOKS ~立命館の本活~(以下、B for B)」の寄付金を活用し、大阪いばらきキャンパスのOICライブラリーにおいて約400冊の図書などを購入、利用を開始しました。B for Bは、卒業生・保護者・教職員などからご提供いただいた書籍の売却代金をご寄付として、立命館の図書を充実させる取り組みです。2013年3月から開始し、これまでに3,812名の方々から18万冊を超える書籍をご提供いただきました(2017年2月末現在)。寄付金は累計で約336万円に到達、これまでに立命館小学校、衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパスの各図書館の図書の充実を図ってきました。



平成28年熊本地震から1年くまもと映画プロジェクト「うつくしいひと」チャリティ上映会を開催

4月13日、大阪いばらきキャンパスにおいて、行定勲監督作品のくまもと映画プロジェクト「うつくしいひと」上映会およびトークセッションを開催しました。「平成28年熊本地震」から1年。前震のあった4月14日の前日である13日に、震災前の熊本の美しい風景と物語が織り込まれた映画を見ながら関西から熊本に思いを馳せようと、災害復興支援が企画しました。

映画上映後は、山口洋典共通教育推進機構准教授(前災害復興支援室副室長)が進行を務め、ゲストに関嘉寛関西学院大学社会学部教授と戸上雄揮さん(法2、くまだす+R代表)を迎え、『関西から熊本に寄り添って』というテーマのもと、トークセッションを行いました。



くまだす+R代表の戸上さん

経営学部

「University Venture Grand Prix 2016」で「TOMODACHI Social entrepreneurship賞」を受賞

1月22日、東京大学本郷キャンパス(情報学環ダイワコピキタス学術研究館)で開催されたビジネスプランコンテスト「University Venture Grand Prix 2016」(経済産業省大学・大学院起業家教育推進ネットワーク主催)決勝大会で、菅間伶史さん(経営2)、川瀬慶さん(経営1)のチームが「TOMODACHI Social entrepreneurship賞」を受賞しました。北アフリカのチェニジアや他の地域で雑草として取り扱われている「アイスプラント」に着目し、この大量に確保できる「アイスプラント」を粉末状にして、食料品の一部または塩の代替品として先進国であるヨーロッパや日本へ輸出を図り、その利益をアフ

リカの地域開発に再投資するビジネスモデルを発表し、副賞として「シリコンバレー研修」へ派遣される権利を手に入れました。



菅間さん(中央左)と川瀬さん(中央右)

国際関係学部

国際シンポジウム「トランプ政権は世界をどう変えるか」を開催

2018年に開設30周年を迎える国際関係学部は1月11日、衣笠キャンパスで、同校友会、米国アメリカン大学School of International Serviceの協力のもと、国際シンポジウム「トランプ政権は世界をどう変えるか」を開催しました。

シンポジウムには学生を含め約100名が参加。数中三十二国際関係学部特別招聘教授(元外務事務次官)が外交や国際政治の立場から、国際関係学部・研究科OBで三井物産戦略研究所主席研究員、元毎日新聞記者の白戸圭一氏がワシントン特派員をはじめとしたメディア経験から、南川文里国際関係学部教授が専門の移民研究の視点から講演を行ったほか、アメリカン大学からDavid Banks氏がビデオ報告を行い、日米双方の視点から多角的にトランプ政権の今後について活発な議論が交わされました。



立命館大学 大学院人間科学研究科 Ritsumeikan University, Graduate School of Human Science START UP 2018.4

人間科学研究科の5つの新しい特色

① 臨床心理士対応プログラムの募集枠拡大！

これまで定員15名であった臨床心理士資格取得認定プログラム。人間科学研究科では25名の募集を行い、今後の社会のニーズに応えるべく枠を拡大しました。これにより国内有数の大規模な臨床心理士対応プログラムとなります。

③ 研究領域の拡大と融合！

これまで融合の機会が少なかった臨床心理学・対人援助学領域と基礎心理学領域。人間科学に関する多様な研究により、院生が自らの学問的関心を中心に据えて、さらに周辺領域との融合や発展を可能にするカリキュラムや研究の機会を用意しています。

② 教員数の大幅拡大！

これまで応用人間科学研究科の臨床心理・対人援助の領域で20名、文学研究科の基礎心理の領域で14名の教員が運営を行っていましたが、人間科学研究科では、臨床心理士16名と対人援助・基礎心理を含めて、計42名の教員体制で専門領域を網羅します。

④ 現役社会人にも対応するカリキュラム！

働きながら学位を取得するため、限られた時間を有効活用しなければならない社会人院生のニーズに応えるサテライト遠隔講義と平日夜間・土曜開講。現役で働く社会人にも対応した開講形態となります。

⑤ 公認心理師認定プログラムに対応！

医療保健領域から教育、福祉、産業、司法、被災者支援、社会福祉と幅広い領域での課題に対応する公認心理師。人間科学研究科では、プログラムへの対応とともに、アカデミックな角度からのアプローチも行います。



Human Science

立命館大学 大学院人間科学研究科

●最新情報はこちら(研究科HPは現在開設準備中)
<http://www.ritsumei.ac.jp/psy/info/detail/?id=43>

お問い合わせ

立命館大学 総合心理学部事務室 Tel.072-665-2190
大阪いばらきキャンパス (OIC) 〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150

入試情報 <http://www.ritsumei.ac.jp/file.jsp?id=336566>



2018年度設置構想中

立命館大学 食マネジメント学部

●食と未来を考えるWebマガジン「ガストロノミア」も公開中
<http://www.gastronomia.jp/>

「食」を「学問」へ

今、世界は食をめぐる様々な課題に直面しています。安全・安心な食の確保や、世界的な食の偏りと格差問題、食品生産技術や保存輸送技術の変化など、もはやひとつの学問分野だけによる解決は不可能であり、従来の価値観や知識だけで解くことはできません。

これまで、食はあまりに身近であるために、学問の対象として深く探究されてきませんでした。しかし、人類的な課題の解決に向けては、深い教養や最新の科学技術に関する知識も必要です。

食マネジメント学部では、食の社会的なあり方や、文化的・歴史的な背景、そして自然科学的な知識までを、経済学・経営学を基盤に「マネジメント」「カルチャー」「テクノロジー」の3つの領域の総合的な学びを通じて理解していきます。さらに、実践的に課題を解決していく力を養うために、企業や組織と連携しながら実習に取り組みます。世界の食関連産業の市場規模は約700兆円に達し、今後も拡大が予測されています。私たちは、食に関わる課題を俯瞰的かつ総合的に捉えて解決できる、高度マネジメント人材の養成に取り組みます。

お問い合わせ

立命館大学 食マネジメント学部設置準備事務室
Tel.077-561-4801 / Fax.077-561-4699
びわこ・くさつキャンパス 〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1

学部サイト <http://www.ritsumei.ac.jp/gas/pre>



学部サイトはこちら

※上記の内容は予定であり、変更する場合があります。

+R な人

誰にも負けない練習量で 憧れのグランドチャンピオンへ！

経済学部4回生

近藤 礼さん(PL学園高校出身) バトントワリング部

第42回全日本バトントワリング選手権大会
ソロトワール女子U22(シニア)部門 優勝
2017IBTFグランプリ大会・第9回WBTFインターナショナルカップ
(8月4〜6日、9〜13日、クロアチア・ボレッチ) 日本代表

バトンで人々を元気にしたいと話す近藤さん
ディズニーランドのパレードなどにも出てみたいと意欲を見せる

高い芸術性と高度な技術力が求められる競技スポーツとして今、注目を集めているのが“バトントワリング”(バトントワリングと言われることもある)。競技種目には、1本のバトンで技術を競うソロトワール、2本のバトンを使用するトゥーバトン、マーチのリズムで行う行進スタイルのソロストラット、バトンとダンスを組み合わせたダンストワール、二人一組で行うペアなどがある。華やかな演技の裏で技を磨くトレーニングはハードを極める。今回は、3月に石川県で行われた国内最高峰の大会「第42回全日本バトントワリング選手権大会」のソロトワール女子U22部門で優勝し、8月にクロアチアのボレッチで開かれる2017IBTFグランプリ大会・第9回WBTFインターナショナルカップに日本代表として出場が決まっているバトントワリング部の近藤礼さんに、競技の魅力や大学生活、世界大会に向けた意気込みなどについて話を聞いた。

空中に高回転のバトンを投げるエアーアル、バトンを身体の一部で転がすように回転させるロー



世界大会への切符をつかんだ大会

ル、バトンを指や手で回転させるコンタクト・マテリアルの大きく3つに区分される技を巧みに組み合わせ、表現力を競うのがバトントワリングだ。欧米などを中心に世界20カ国以上で行われ、その操作技術は数百種類あると言われており、バトンを駆使した華麗な舞は、競技のみならず様々な場面で人々の心を捉えてやまない。

5つ上の姉の背を追いかけるように3歳から競技を始めたという近藤さん。6歳の時に関東大会で年代別の1位を獲得するなどメキメキと上達。年を重ねるごとに曲に合わせ、楽しさや喜び、悲しみなど様々な感情を表現できる競技の魅力に引き込まれていった。

しかし、自身の向上心とは裏腹に、全国大会には出場するものの上位に食い込めなくなっていた。新体操やエアロビクス、ダンスなど他のスポーツに寄り道したこともあったと言うが、「やっぱりバトンが好き」と、気が付けばバトンに汗を流す自分がいた。

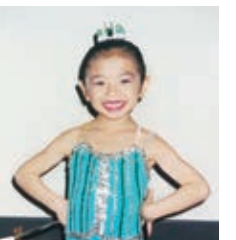
小・中学校時代、日の目を見ることはなかったが、「日本一になるためには日本一の練習をしないとイケない」というコーチの言葉を胸に人一倍練習に打ち込んできた。負けん気の強さと努力の積み重ねで、高校では団体種目でチームの中核となり、個人種目とあわせて全国大会などで活躍。ついに高校生のソロ部門で優勝を果たす。

その後も「もっとバトンを極めて、グランドチャンピオンになりたい」と新たな目標を立て立命館大学への進学を意識。当時から立命館のチーム演技は全国の中・高校生の憧れの的でもあり、ハードな練習と学業との両立の厳しさを聞いていたが、夢を叶えるために入学を決意した。

覚悟の上だったが、勉強と練習の両立は予想

以上に厳しいものだった。一人暮らしの寂しさも相まって、逃げ出したい気持ちになったこともあったというが、「勉強も練習も同じように頑張る仲間がいたから乗り越えられました」と振り返る。4回生となった現在は、個人種目もすることながら、部のリーダーとしての重責も担っている。「育った環境や目指してきたものが異なるメンバー全員が、一つの目標に向かい、お互いに存在意義を感じながら活動できるよう部を運営していくことの難しさを学びました。視野も広がり、いろいろな考えながら取り組めるようになりました」と笑顔で話す。

確かな練習量と精神的な成長によって、先日の中日本大会で優勝。最大の目標だった全部門の頂点となるグランドチャンピオンこそ逃したものの、前回5位に終わっている世界大会でのメダル獲得に向けまずまずの仕上がりを見せている。今もシーズンを問わず練習に打ち込み、時間があればバトンを回す日々。捻挫はもちろん、肋骨の骨折なども一度や二度ではないという。そうした窮地を乗り越える原動力となっているのが、小さい頃から信じてやってきた何千、何万時間にもおよぶ練習に他ならない。「世界のメダルもそうですが、一番の目標であるグランドチャンピオンを獲るまではやめられない」。大学でのラストチャンスとなる来春の全日本に向け、これまでの学びをステップにラストスパートをかける。



小さい頃からバトンと一緒に過ごしてきた

